

平成 21 年 7 月 14 日

株式会社インテリジェンス・アンド・クラフツマン

古内 栄

流行のアニメや漫画から考察する時代と日本人の価値観

昨今、国立のマンガ喫茶などが国会でも話題だったが、日本のアニメが世界で高く評価されている事に異論を挟む者は居ないだろう。

所謂、原宿発信の「ギャル」向けファッションや、そこから派生した「カワイイ」の文化、そして、アニメ・漫画はまさに「クールジャパン」の象徴である。

ここで取り上げる 3 作品は、いずれも商業的に高い成功を収め、かつ、多くの者から時代を代表する作品と認識されていると考えている。

また、ここで取り上げる 3 作品の主人公はいずれも年齢が 14 歳～15 歳の少年・少女であり、同一年齢の少年・少女の描いたこれらの作品から、各マンガやアニメが流行した社会的背景とそれらを受け入れた各時代の日本人の価値観の変遷について比較検討したいと考える。

今回、取り上げる作品は以下のとおりであり、1960 年代後半～1990 年代を象徴するマンガ・アニメであると思料される。

- ・「あしたのジョー」 1960 年代後半～1970 年代前半
- ・「機動戦士ガンダム」 1970 年代後半～1980 年代前半
- ・「新世紀エヴァンゲリオン」の時代 1990 年代

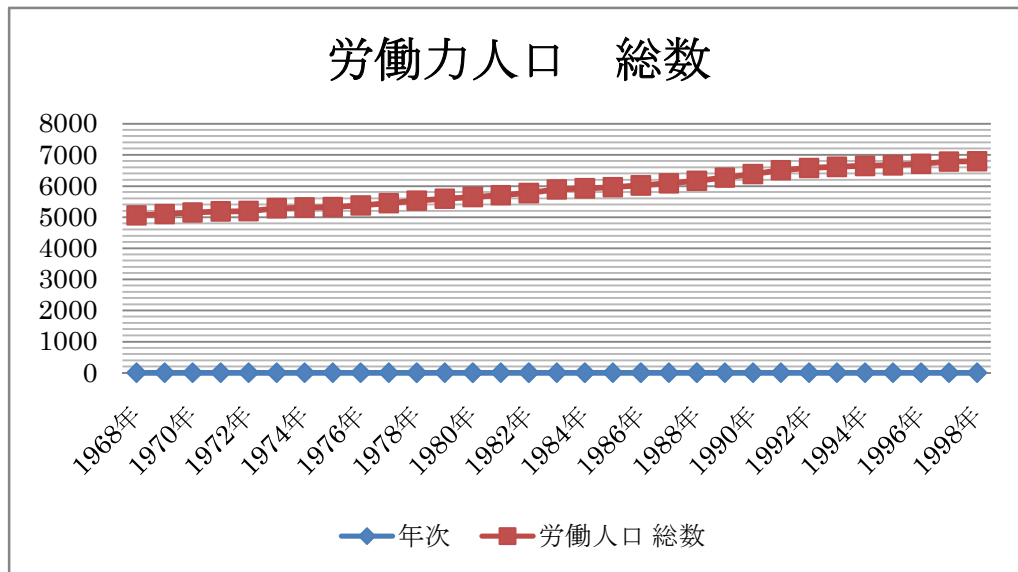
- (1) 各時代の様々なデータ
- (2) 「あしたのジョー」の時代
 - 1・連載開始時期と放映開始時期
 - 2・時代背景
 - 3・作品の世界観と主人公の性格など
- (3) 「機動戦士ガンダム」の時代
 - 1・連載開始時期と放映開始時期
 - 2・時代背景
 - 3・作品の世界観と主人公の性格など
- (4) 「新世紀エヴァンゲリオン」の時代
 - 1・連載開始時期と放映開始時期
 - 2・時代背景
 - 3・作品の世界観と主人公の性格など
- (5) 総論 (まとめ)

(1) 各時代の時代背景に関する様々なデータ

今回、3 作品が作られた時代背景や時代を取り巻く環境を考察する為に次のデータを用意した。

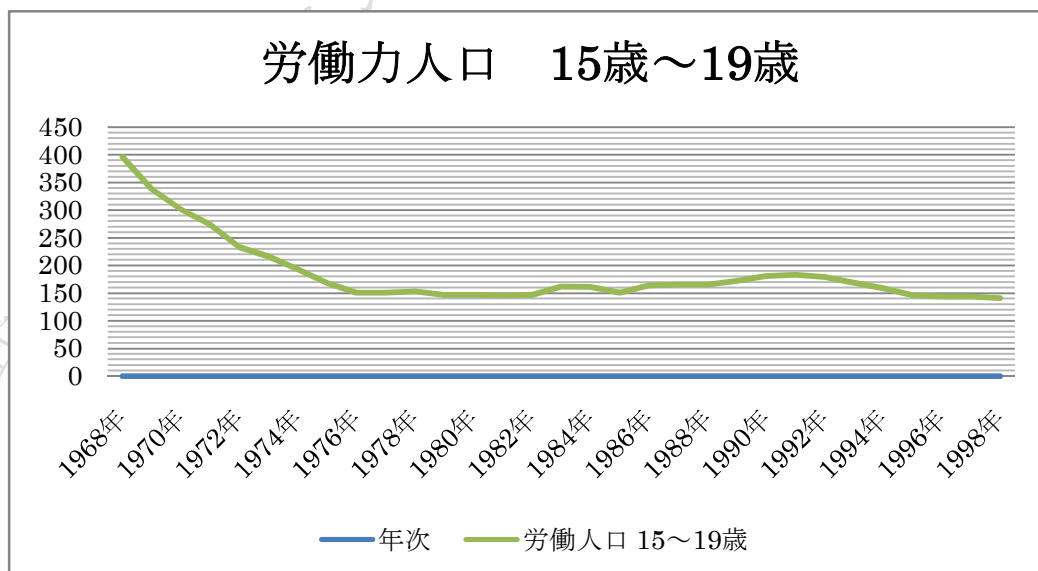
- 1・労働人口総数と 15～19 歳の労働人口総数
- 2・15～19 歳の労働人口比率
- 3・完全失業率と 15～19 歳の完全失業率
- 4・進学率と就職率
- 5・中途退学者数及び中途退学率
- 6・不登校児童数
- 7・少年犯罪件数
- 8・離婚率
- 9・女性の労働力人口比率
- 10・名目 GDP・実質 GDP・GDP デフレーター前年比

1・労働人口総数（縦軸：万人）



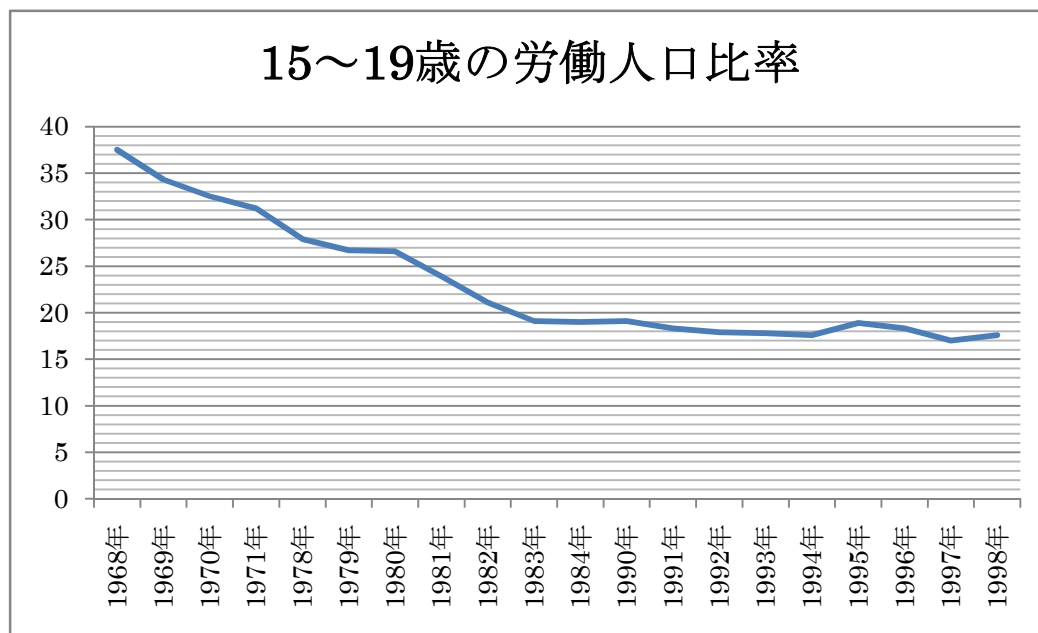
(出所)総務省統計局 労働力調査 長期時系列データ

15～19歳の労働人口総数（縦軸：万人）



(出所)総務省統計局 労働力調査 長期時系列データ

2・15～19歳の労働人口比率（縦軸：％）



(出所)総務省統計局 労働力調査 長期時系列データ

3・完全失業率と 15～19 歳の完全失業率

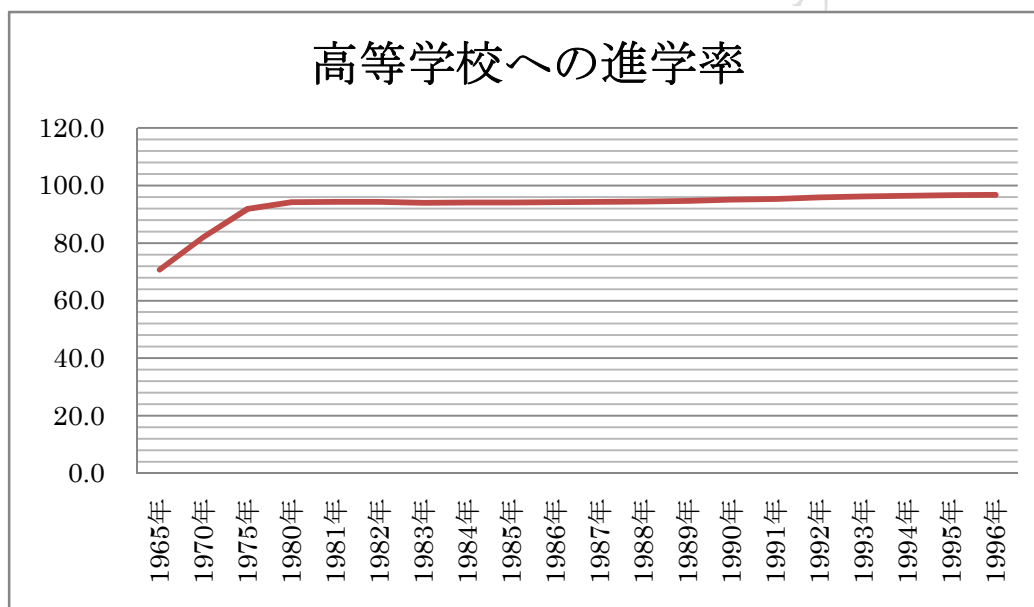
年次	完全失業率	
	総数 (%)	15～19 歳 (%)
1968 年	1.2	2
1969 年	1.1	2.1
1970 年	1.1	2
1971 年	1.2	2.2
1978 年	2.2	4.6
1979 年	2.1	4.8
1980 年	2	4.1
1981 年	2.2	5.5
1982 年	2.4	5.4
1983 年	2.6	6.2
1984 年	2.7	6.8
1990 年	2.1	6.6
1991 年	2.1	6.6
1992 年	2.2	6.7
1993 年	2.5	7.1
1994 年	2.9	7.5
1995 年	3.2	8.2
1996 年	3.4	9
1997 年	3.4	9
1998 年	4.1	10.6

(出所)総務省統計局 労働力調査 長期時系列データー

4・進学率と就職率

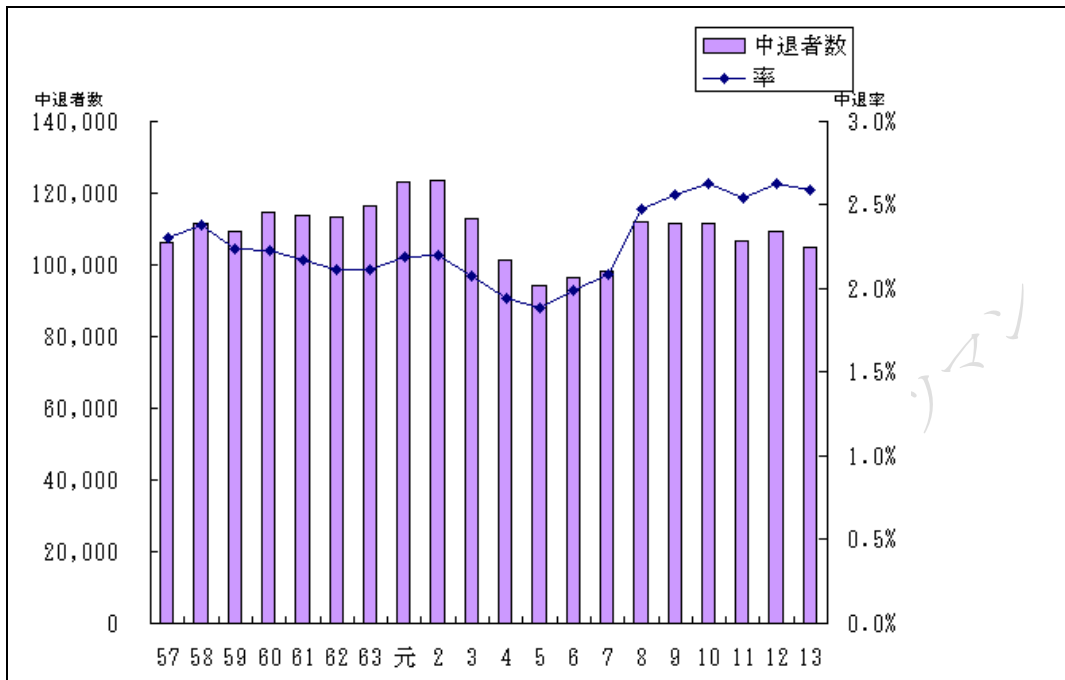
年次	中学卒業者		高校卒業者		大学・短大への
	進学率	就職率	進学率	就職率	進学率(浪人含む)
1975年	91.9	5.9	34.2	44.6	38.4
1980年	94.2	3.9	31.9	42.9	37.4
1985年	94.1	3.7	30.5	41.1	37.6
1995年	96.7	1.5	37.6	25.6	45.2
1996年	96.8	1.4	39	24.3	46.2

(出所)文部科学省



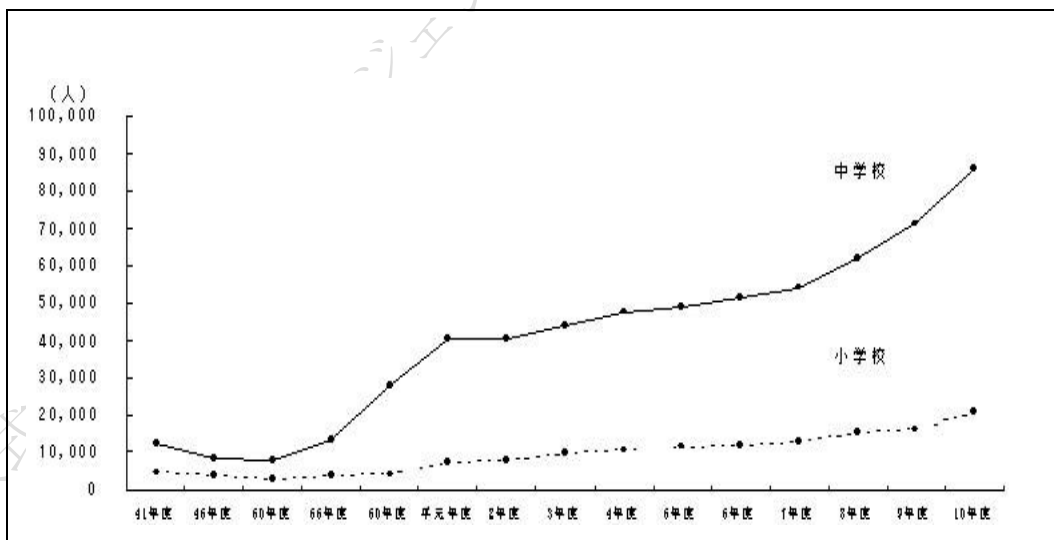
(出所)国立社会保障・人口問題研究所

5・中途退学者数及び中途退学率



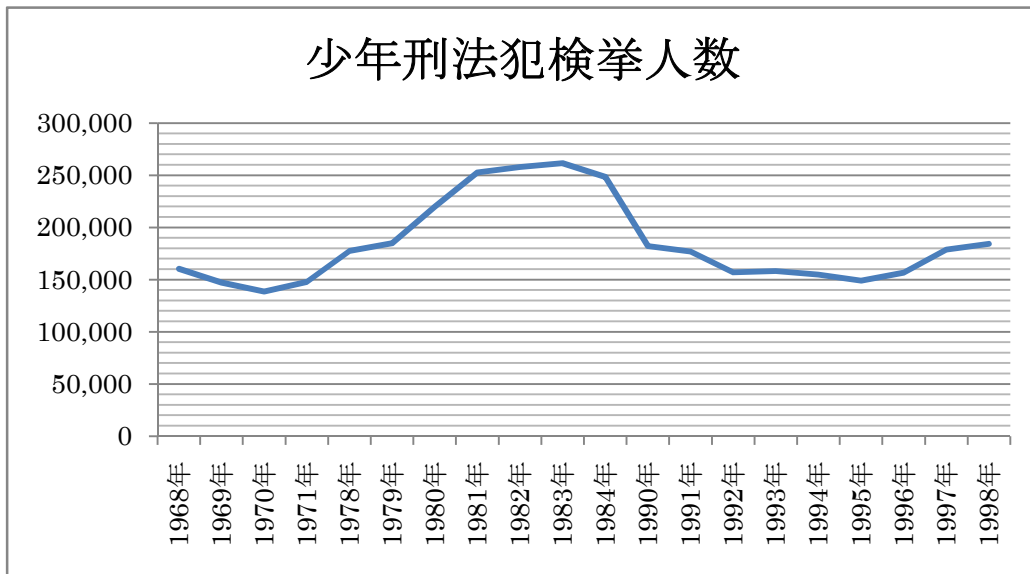
文部科学省 2002 年 12 月 25 日発表：生徒指導上の諸問題の現状について（概要）第 6 章 高等学校中途退学等（図 6-1）。中途退学者数及び中途退学率 転載

6・不登校児童数



文部科学省 2002 年 12 月 25 日発表：生徒指導上の諸問題の現状について（概要）第 5 章 不登校（参考）不登校児童生徒数の推移（50 日以上） 転載

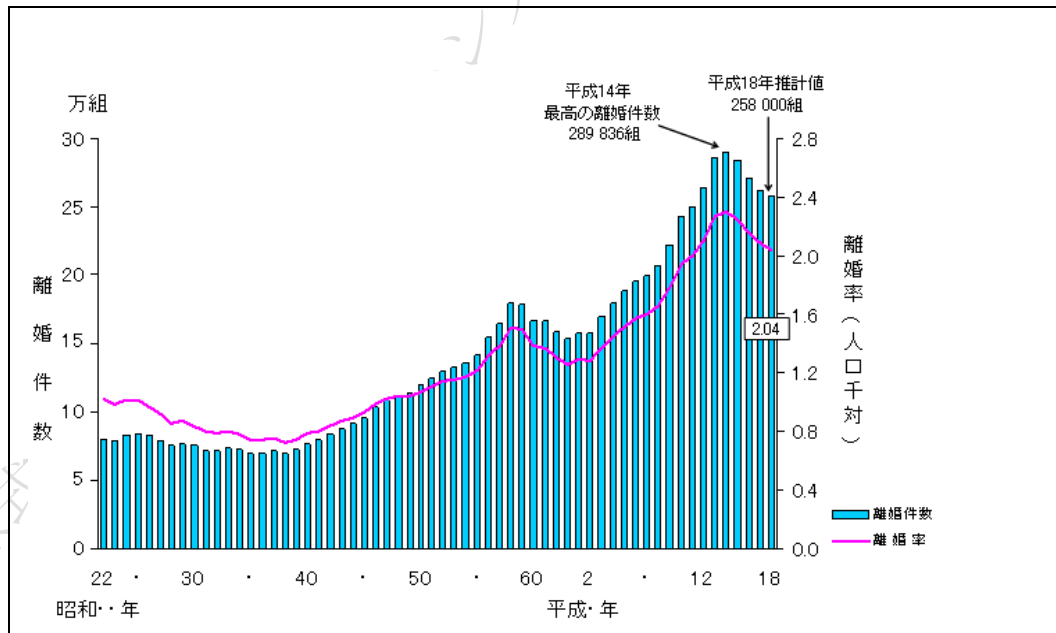
7・少年犯罪件数（縦軸：人）



・交通関係除く少年刑法犯検挙件数の推移

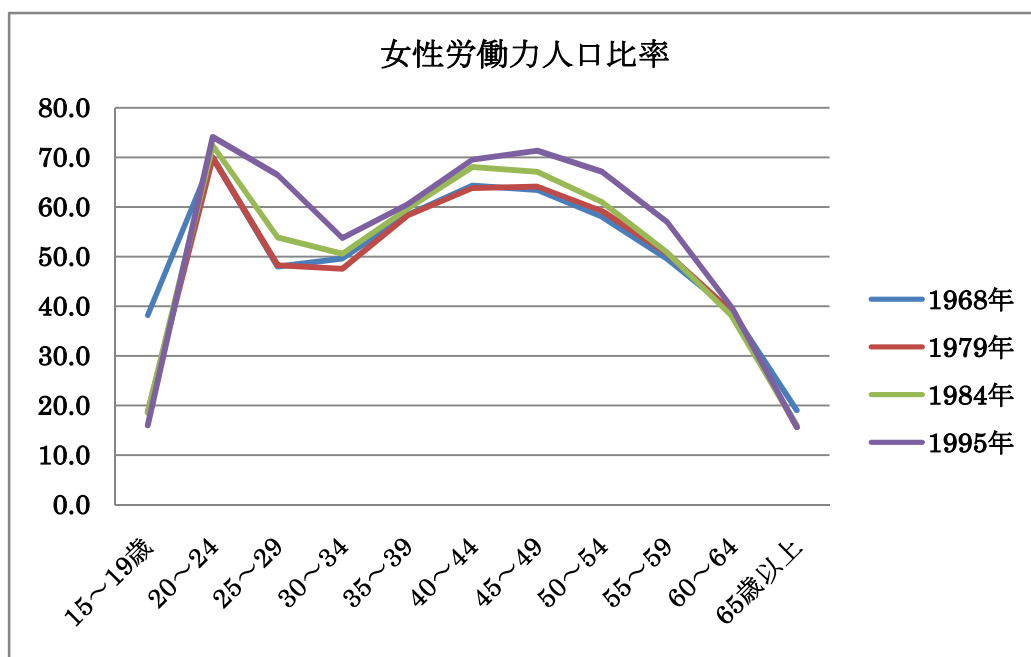
(出所)警察白書

8・離婚率



厚生労働省 平成 18 年人口動態統計の年間推計 離婚件数及び離婚率の年次推移
転載

9・女性の労働力人口比率（縦軸：％）



(出所)総務省統計局 労働力調査 長期時系列データ

10・名目 GDP・実質 GDP・ GDP デフレーター前年比 (単位 : 10 億円)

<表 2>

	名目 GDP	実質 GDP	GDP デフレーター前年比
1968 年	28,973.6	92,232.9	5.1
1969 年	33,299.8	101,768.8	4.2
1970 年	38,332.5	109,286.6	7.2
1971 年	43,230.0	115,291.2	6.9
1972 年	49,900.9	125,640.3	5.9
1973 年	60,307.8	136,705.0	11.1
1974 年	72,912.1	136,590.2	21
1975 年	84,762.7	142,605.4	11.3
1976 年	95,783.7	146,752.0	9.8
1977 年	107,076.2	152,671.0	7.5
1978 年	117,923.1	160,690.4	4.6
1979 年	130,077.9	171,113.0	3.6
1980 年	240,969.2	313,140.1	
1981 年	259,034.0	322,325.9	4.4
1982 年	271,887.8	331,236.1	2.1
1983 年	282,803.3	336,575.0	2.4
1984 年	300,940.8	347,072.5	3.2
1985 年	323,541.2	364,712.2	2.3
1986 年	338,674.0	375,502.9	1.7
1987 年	352,530.0	389,753.2	0.3
1988 年	379,250.4	416,119.1	0.8
1989 年	408,534.7	438,135.7	2.3
1990 年	440,124.8	460,925.2	2.4
1991 年	468,234.4	476,369.4	2.9
1992 年	480,492.1	480,999.6	1.6
1993 年	484,233.8	482,190.5	0.5
1994 年	486,551.7	469,969.1	
1995 年	493,588.1	479,181.4	-0.5
1996 年	504,261.9	492,340.1	-0.6

1955 年～1979 年は、平成 2 年基準 (68SNA) 連鎖 1980 年～1993 年は、平成 7 年基準 (93SNA) 連鎖 (固定基準年方式) 1996 年～最新年 は、平成 12 年基準 (93SNA) 連鎖 (連鎖方式) 「国内総生産」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』から引用・転載 2009 年 7 月 9 日 (木) 11 時 05 分 URL: <http://ja.wikipedia.org>

(1) 「あしたのジョー」の時代

1・連載開始時期と放映開始時期

「あしたのジョー」は1968年～1973年かけて講談社「少年マガジン」連載。TV放映の期間は1970年4月～1971年9月。

2・時代背景

「あしたのジョー」が雑誌に連載され、TV放映された当時の内閣は「第二次・第三次 佐藤 栄作内閣」(1967年2月17日 - 1972年7月7日)であり、その後、「日本列島改造論」の「田中 角栄」へと引き継がれる。

高度経済成長と呼ばれた同時期、1968年にはGNPが西側世界第2位となり、学生運動の象徴的事件である「共産主義者同盟赤軍派による日本航空便ハイジャック事件」が1970年3月31日に発生している。事件当時、共産主義者同盟赤軍派は「われわれは明日、羽田を発たんとしている。われわれは如何なる闘争の前にも、これほどまでに自信と勇気と確信が内から湧き上がってきた事を知らない。最後に確認しよう。われわれは明日のジョーである」との声明を発表している。

また、日本の四大公害病とされる、水俣病、第二水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくは、高度経済成長の中で発生し、1967年から1969年にかけて「水俣病」「第二水俣病」の患者および家族などが相手企業へ損害賠償訴訟を起こし、1969年には「公害に係る健康被害の救済に関する特別措置法(昭和44年法律第90号)」が公布されている。

社会を騒がせた主な事件としては、1968年12月10日に発生した所謂、三億円事件があり、主な国際的な事件・出来事として、1968年4月4日「キング牧師暗殺」1968年5月「フランス五月革命」1968年6月5日「ロバート・ケネディー上院議員暗殺」がある。

次に、各種データを見てみると同時代について次のことが推察される。

- ・名目GDP・実質GDPは拡大し、物価はインフレ傾向であった。
- ・1968年～1971年の労働人口総数の平均は5,125万人、15～19歳の労働人口総数の平均は260万人で、特に「あしたのジョー」の連載が開始された1968年の15～19歳の労働人口(就業者と完全失業者を合算した数字)総数は396万人であり、1968年～1995年の間で最大の数字である。これは、所謂、「中卒は金の卵」と呼ばれた団塊の世代(1947年～1949年)生まれの中学校卒業が1962年～1965年に当たるため、10代で働く若者が多かった思料される。
- ・1968年～1971年の15～19歳の労働人口比率は33.9%と高く、15～19歳の労働者が多

い時代であったと推測され、理由は前述同様だと思われる。

- ・1968年～1971年の完全失業率の平均は1.15%と低い。また、15～19歳の完全失業率の平均も2%であり、成長に裏打ちされた経済状況の中で失業率は低く、働く意欲のある者には、仕事を確保し易い時代だったと推測される。
- ・1960年と1970年の高等学校進学率と1984年および1995年のそれを比較すると、84年が94.1%、95年が96.7%といずれも95%前後の数値であるのに対し、65年は70.7%、70年が82.1%と低いのが分かる。
- ・1968年～1971年の中途退学者数及び中途退学率に関するデータ収集は出来なかった。
- ・50日以上不登校児童数は1966年小中学合計16,716人、1970年小中学合計11,983人であり、不登校児は社会的問題として認識されていないようだ。
- ・1968年～1971年の交通関係除く少年刑法犯検挙件数平均は148,082人であり、1968年以降と比較してもずば抜けて多くはない。
- ・1968年～1971年の離婚数は10万組を下回り、人口千人に対する離婚率も68年0.87%、69年0.89%、70年0.93%、71年0.99である。
- ・1968年～1971年の女性の労働力人口比率のうち、25～29歳、30～34歳の労働力人口比率の落ち込みが目立ち、女性は結婚・子育ての為、職場を離れ家庭に入る傾向が強かったと思料される。

以上のように、1968年～1970年は高度経済成長の末期、多くの人が豊かさを求め働き、物価は高いが失業の危機も少ない経済状況の中で、公害やベトナム戦争や米国での要人テロや既成の概念と闘うことを目的とした共産主義的革命運動が盛んな時代だったと推測される。また、15歳～19歳の少年・少女も働き手として社会に出る者が多く、不登校は問題として認識されておらず、離婚率も低く20代～30歳代の女性の労働人口比率も低い事から、女性は「結婚・出産・子育て」と、それに伴い家庭に入る傾向が強かったと推測され、「夫は正社員で働き、妻は専業主婦」という家族が多かったと思われる。

なお、昭和44年7月15日経済企画庁が発表した「豊かさへの挑戦 第2部 新段階の日本経済」では「日本経済の実力」と「むすび—豊かさへの挑戦」の項で、当時の日本経済を次のように評している。

<年次経済報告 昭和44年7月15日 経済企画庁>

(2) “2位と20位”の意味

経済規模において自由世界第2位になった経済も、1人当たりの国民所得で見ると昭和43年(1968年)には1,110ドル(約40万円)でなお20位前後である。もともと、全体の規模(2位)と1人当たりの水準(20位前後)との違いには、人口数や為替換算率なども影響していて、そのこと自体たいした意味はない。西ドイツについて同様な表現をとるとすれば“3位と

12位”ということになる。また人口1,000万以上の国をとつてみると、わが国の順位は第9位になる。問題は、同じような発展段階にある先進諸国と比較しても、たとえば1968年においてわが国の国民総生産は西ドイツより7%多いが、1人当たりになると逆に3割あまり少ないとか、また1人当たりでもアメリカの3分の1にすぎないということ、そしてその基本的要因はわが国の1人当たり生産性がこれら諸国よりなお低位にとどまっているということにある。

—むすび—

日本経済は、戦後4分の1世紀にわたって高い成長をつづけ、その結果、今では経済規模において自由世界第2位となり、国際的地位も高まった。同時に、成長の過程で、かつて日本経済を悩ました失業や極端な低収入はほぼなくなり、二重構造も解消に向かっている。物的な意味での古い貧困に打ち克つことに成功しつつあるといえよう。そしてわが国民の資質と活力をもつてすれば、国民1人当たり所得水準において一流先進国水準に達することはもはや時間の問題であるともいえる。

しかし、ひるがえって成長の中身をみれば、なおあまりに多くの未解決の問題を残している。本文で詳述したように、経済的な意味においてはもちろん、経済成長がもたらす社会的な成果の面でも多くの困難をかかえ、所得とか、物的な豊かさとは別の意味の貧困が生じているといつても過言ではない。今後、これらの問題の解決に挑戦し名実ともに“豊かな国”をつくり上げることが、新しい経済政策の目標である。この目標を実現するために必要なことは何か。

上記の年次報告の指摘は、1968年当時の日本がGNPで自由世界第2位となったが、国民の生産性と一人当たりの所得は一流先進国水準に達しておらず、物的意味での貧困に打ち克つことに成功しつつあるが、経済成長がもたらす社会的な成果の面で多くの困難を抱えていた時代だったと結論出来るであろう。

なお、1968年の大卒の初任給は3万600円である（出所 厚生労働省大臣官房統計情報部賃金福祉統計課「賃金構造基本統計調査報告」）

3・作品の世界観と主人公の性格など

・作品の世界観

「あしたのジョー」の舞台は1968年頃の所謂ドヤ街と呼ばれる「山谷」（東京都台東区、荒川区の一部）が舞台である。

作品の中で頻りに登場する「泪橋」は現在、「泪橋交差点」として名前が残っている。

・主人公の性格

「あしたのジョー」の主人公「矢吹 丈」はマンガの中での会話（注：逮捕された際の警察とのやり取りで）から、所謂「山谷」のドヤ街に現れた当初、推定15歳の少年だと史料

される。親兄弟に関する情報は無く、警察に補導された後、鑑別所、少年院送致される「不良少年」である。

1968年当初、15歳だと仮定すると、生まれたのは1953年頃（団塊の世代の少しあと）であり、終戦から8年後に生まれたことになるが、ライバル「力石徹」は17歳の設定で、兩人とも「団塊の世代」の価値観と影響を少なからず受けていると判断される。

「矢吹 丈」は両親や兄弟もいない浮浪児としてドヤ街「山谷」に流れ着き、泪橋の下で野宿生活をしながら、生きるための詐欺事件や喧嘩沙汰を繰り返し、警察に補導された不良少年であるが、性格は明るく、詐欺を行う程に雄弁で他人を魅了する人柄で、年下の子供達にも好かれ、何より「倒れても立ち上がる」負けず嫌で「明日のために」そして「真っ白になるまで闘う」少年として描かれている。

また、「あしたのジョー」は「山谷」のドヤ街が舞台であるが、「山谷」の生活や「矢吹 丈」の生き方には貧困に対する負の感情は読み取れない。そこにある「明日」には経済成長に裏打ちされた「希望」が見え隠れし、豊かな生活を求める人々の生への情熱が感じられ、倒されても常に立ち上がる「矢吹 丈」の姿に戦後日本の奇跡の復活を見て取るのは考え過ぎであろうか。

(3) 「機動戦士ガンダム」の時代

1・連載開始時期と放映開始時期

「機動戦士ガンダム」は1979年4月～1980年1月までTV放映され1981年～1982年の間に劇場版3作が公開された。

2・時代背景

「機動戦士ガンダム」がTV放映された当時の内閣は「第一次大平内閣」（1978年12月7日 - 1979年11月9日）であり、その後、「戦後政治の総決算」を掲げた「第一次～第三次中曽根内閣」（1982年11月27日 - 1987年11月6日）へと続き、「中曽根政権」では「日本専売公社」「日本国有鉄道」「日本電信電話公社」の民営化が実施されている。

米国では1981年～1987年までロナルド・レーガンが政権を担当している。ロナルド・レーガンは「レーガノミックス」（サプライサイド経済学に基づく経済政策）と呼ばれる一連の経済政策を行い、強いアメリカを旗印に強硬な外交政策を行い、ソビエト連邦を「悪の帝国」と呼び、「レーガン・ドクトリン」を発表し、世界各地の反共主義運動を支援している。その後、ソビエト連邦の崩壊とベルリンの壁崩により、最終的には冷戦が終結し、イデオロギーの対立に終止符が打たれた。しかし、同時代には、その後の新自由主義（米国のジョージ・W・ブッシュ政権や日本の小泉・竹中改革）に繋がる合理主義が台頭し始め

た時代でもある。日本でも景気拡大が続き、多くの国民が物質的豊かさを受諾する「国民総中流時代」から、1985年のプラザ合意を経てバブル景気へと突き進む。

また、「機動戦士ガンダム」と同時期には「AKIRA」（講談社ヤングマガジン 1982年12月から連載開始）や「幻魔大戦」（1983年劇場版公開）「風の谷のナウシカ」（1984年劇場公開）などの作品が人気を集めている。これらの作品に共通するのは「世界の終末」「文明の崩壊」「ニュータイプや超能力などの超人的な力」である。これは、70年代～80年代に米国で生まれた「ニューエイジ運動（水瓶座の時代）」や「ノストラダムスの大予言と終末思想」「オカルトブームと精神世界ブーム」などに関連があると言われる。

次に、各種データを見てみると同時代について次のことが推察される。

- ・名目 GDP・実質 GDP は拡大し、物価はインフレ傾向だが、1978年からは GDP デフレーター前年比 3～4% 台へ下がっている。
- ・1979年～1982年の労働人口総数の平均は 5681 万人、15～19歳の労働人口総数の平均は 147 万人と、「あしたのジョー」の連載が開始された 1968年の 15～19歳の労働人口（就業者と完全失業者を合算した数字）から 249 万人も減少している。
- ・1979年～1982年の 15～19歳の労働人口比率も 17.9%に減少していることが分かる。
- ・1979年～1982年の完全失業率の平均は 2.16%で「あしたのジョー」の連載時期より、約 1%増加し、特に、15～19歳の完全失業率の平均は 4.95 と上昇している。
- ・1984年の高等学校進学率は 94.1%であり、中学卒業後の進路として就職を選択する者が減少し、もはや「中卒は金の卵」という価値観は無くなったと言える。
- ・1982年の中途退学者 106,041 人、中途退学率 2.3%となっており、それ以降の 1992 年まで増加傾向になっている。中退の理由は「学業不振・学校生活・学業不適応」が 33・9%で経済的理由は 5.1%である。したがって、生徒の個人的理由での中退が主であり、経済的に安定している同時期、家計を助けるなどの理由での中退は少なかったと判断される。
- ・50 日以上不登校児童数は 1980 年小中学合計 17,215 人であるが、1985 年には小中学合計で 31,997 人と急激に増加し、この増加の傾向は、その後の大きな社会的問題になっていく。
- ・1979年～1982年の交通関係除く少年刑法犯検挙件数平均は 228,865 人と 1968年～1998 年間の間で最多の人数を数えている。これは、当時、「なめ猫ブーム」など不良や暴走族などが一種の流行であったことも影響していると思料されるが、これ（「なめ猫と少年刑法犯検挙件数との因果関係」）については別の機会で検討してみたい。
- ・1979年～1982年の離婚数は 10 万組を上回り 15 万組に及ぶ勢いである。また、人口千人に対する離婚率も 79年～82年の平均は 1.28 と上昇している。
- ・1979年～1984年の女性の労働力人口比率のうち、25～29歳、30～34歳の労働力人口比率が高くなり、特にバブル景気直前 1984 年以降は増加している。これは、婚姻率が 68

年 9.5%、79年 6.8%、84年 6.2%と減少し、かつ、離婚率が上昇および出生率の低下などの要因が絡みあい、25～29歳、30～34歳の女性労働人口比率が増加したと史料される。

以上のように、1979年～1982年は高度経済成長が終わり、多くの人々が物質的な豊かさを享受し、15歳の少年・少女の大多数が高等学校に進学したが、その一方で、少年犯罪や不登校の問題が大きくなり、離婚率も上がり、20代～30歳代の女性の労働人口比率も増え、社会問題や経済問題よりも、各家庭、各個人の問題が大きな比重を占め始めた時代と史料され、これまでの「家族像」（正社員の夫に専業主婦の妻）に若干、綻びが入った時代である。

3・作品の世界観と主人公の性格など

・作品の世界観

「機動戦士ガンダム」の舞台設定は、人類の宇宙への移民が始まった宇宙世紀から79年後の宇宙世紀0079年であり、登場人物の一人である、「ギレン・ザビ」の「ヒトラーは中世の人物」という台詞から、20世紀から300年～500年の歳月が経っていると思われる。

宇宙移民国家「ジオン公国」は、「ザビ家」の独裁国家であり、「ザビ家」の野望や、ある種の「選民思想」と「地球で暮らすエリート層」への反発など様々な感情を持ちながら、地球連邦に独立戦争を仕掛け、開戦から1ヶ月で総人口の半分を失ったといわれる。（余談であるが「機動戦士ガンダム」には第二次世界大戦の影響が色濃く見られ、作戦名や「ジオン公国」と「地球連邦」などの設定は第二次世界大戦を参考に行っている）

総人口の半数が死んだ過激な絶滅戦の中で、当然、兵士は少年・少女などの若い予備役や民間人の志願兵などが増え、「機動戦士ガンダム」を操縦するパイロット「アムロ・レイ」やその周囲の人物も15歳～19歳の少年兵や少年士官の設定になっている。また、作中には「マチルダ・アジャン」「キシリア・ザビ」「ララァ・スン」「ミライ・ヤシマ」「セイラ・マス」などの女性指揮官、女性兵士が登場しており、1979年～1982年当時の女性の社会進出に符号している。

・主人公「アムロ・レイ」について

主人公「アムロ・レイ」は年齢が15歳。軍属であり、「ガンダム」設計者の父とサイド7と呼ばれる「スペースコロニー」で暮らしていたが、母親は地球で暮らしており、所謂「エリート層」の出身だと史料される。

性格的には機械いじりが好きな根暗な少年で、女友達の「フラウ・ボウ」に「キタない」「クサイ」となじられる程、「趣味に没頭すると周りが見えなくなる性格」の少年として登場する。

父親や大人への不信感が強く「父さんはこの人たち（避難民）より、モビルスーツの方が大事なんですか？」などと衝突する場面もあり、上官である「ブライト・ノア」から殴られた時には有名な「親父にもぶたれたことがないのに」と叫ぶ少年である。

なお、アムロ自身が母と祖父を亡くした「フラウ・ボウ」を励ますため「しっかりしろ。キミは強い女の子じゃないか」と頬を打つ場面があることから、作者が「叱咤激励の際の頬打ち」や「教育の為の体罰」を否定している訳ではない事が分かり、体罰を完全否定する時代ではなかったことも推測される（「戸塚ヨットスクール事件」は1983年に校長が逮捕・起訴）

また、アムロの父は自分の息子の事を「まだ子供だよ」と「ブライト・ノア」へ告げていることから、15歳は社会的に未熟な子供と認識されている事が窺われ、「金の卵」と呼ばれ15歳から社会へ出てはぼ一人で闘った「あしたのジョー」の世代との温度差を感じる。父親は地球連邦の軍属であり、妻を地球に残し、子供であるアムロにもあまり関心を示さない仕事人間であるが、「ガンダムが量産化されれば戦争は終わる。若者たちも死ななくてすむ」との台詞から、究極のモビルスーツを作る自己満足だけで仕事に取り掛かっている訳ではなく、彼なりの理想を裡に秘め仕事に没頭している仕事人間（団塊の世代の価値観を有する人物）だと思われる。

アムロは偶然にも「ガンダム」を操縦し、その後も、「ガンダム」のパイロットとして、宿敵「シャア・アズナブル」などと闘いを繰り広げるが、明確に闘う理由を見つけられず、闘いに疲れ軍から脱走し、パイロットとしての業務放棄を行い、上官である「ブライト・ノア」に対して「やりますなんて言わない。やるしかないんだろ」と反発を繰り返すが、次第に「ニュータイプ」として覚醒していく。

「ニュータイプ」と呼ばれる宇宙で覚醒した人間についての定義は難しいが、作中で「所謂、勘が良い者」や「エスパーみたいなもの」と呼ばれていることから、前述した「超能力などの超人的な力を持つ者」に分類されると思料され、1970年中盤から起こった「ユリゲラー」などに代表される「超能力ブーム」から影響を受けていることも考えられる。

以上の様に主人公「アムロ・レイ」は「機械いじりに熱中する根暗な小年」であり、当初は「闘う理由、生きる目的や働く目的を見つけられず自分と葛藤する少年」であり、「大人達へ反発する少年」であるが、同時に友人を「叱咤激励する優しい」一面も持ち、やがて戦争という極限の中で「ニュータイプ」として目覚め、英雄的な活躍をし、最後は「ぼくにはまだ、帰れるところがあるんだ」と自分の居場所を仲間の中に見つける15歳の少年である。

(3) 「新世紀エヴァンゲリオン」の時代

1・連載開始時期と放映開始時期

「新世紀エヴァンゲリオン」は1995年10月～1996年3月までTV放映され1994年12月26日から現在（途中の中断あり）まで、角川書店「月刊少年エース」誌上などで連載されている。

2・時代背景

「新世紀エヴァンゲリオン」が雑誌に連載され、TV放映された当時の内閣は自民・社会・さきがけ連立の村山内閣・村山改造内閣（1994年6月30日～1996年1月11日）であり、戦後55年体制による保守と革新の対立時代に終結が打たれた時代である。

バブル景気崩壊後の1990年代初めから始まった所謂「失われた10年」と呼ばれる同時期、国内では、倒産件数と失業者の増加、その後、「山一証券」「北海道拓殖銀行」などの大手金融機関は自主廃業や破綻に追い込まれ、大手金融機関の合併（1995年の「三菱銀行」と「東京銀行」の合併など）などが起きている。

また、1994年6月27日に派生した所謂「松本サリン事件」を皮切りに、オウム真理教は重大事件を立て続けに起こし、1995年2月28日には「目黒公証人役場事務長拉致監禁致死事件等」、1995年3月20日には「地下鉄サリン事件」などの一連の凶悪犯罪を繰り返し、1995年5月16日の教団代表松本智津夫（麻原彰晃）の逮捕に至るが、教団は現在も名称などを変え生き残っている。

「オウム真理教」などの新々興宗教の台頭は、「機動戦士ガンダム」の項目でも触れたが、1970年代後半～1980年代に起こった、「文明の崩壊」「終末論」「超能力」「オカルト」ブームなどを経て、若い世代の一部に形而下の価値よりも形而上的な価値に重きを置く風潮が流行したことに要因の一端があるとも言われている。

高度経済成長、バブル景気、バブル崩壊ならびにベルリンの壁の崩壊から共産主義の終末を経て、日本人の一部は、自信を失い、これまでの価値に疑問を抱き、物質的な豊かさと共産主義的合理主義に懐疑的になり、多くの新々興宗教に新たな人生の目的を見出そうとしたのかもしれない。それは、豊かさを追い求め経済的な繁栄を目的にしていた多くの日本人が、政治や経済などの自分を取り巻く外部世界から「自分の内的世界に価値」を求め始めた時期だと思われる。

なお、その後の、1997年には「神戸連続児童殺害事件」（犯人は当時14歳）、2000年には「豊川市主婦殺人事件」「西鉄バスジャック事件」（いずれも犯人は17歳で「神戸連続児童殺害事件」の犯人と同じ生まれ）などの凶悪な少年犯罪が起きている。

次に、各種データを見てみると同時代について次のことが推察される。

- ・1993年から名目GDP・実質GDPは拡大幅が縮小し、1995年、1996年GDPデフレーター前年比がマイナスになり、GDPの拡大幅縮小とデフレ時代への突入により所謂「平成不況」「失われた10年」の時代に突入した。
- ・1992年～1995年の労働人口総数の平均は6626万人、15～19歳の労働人口総数の平均は163万人と、「機動戦士ガンダム」の連載が放映された1979年の15～19歳の労働人口（就業者と完全失業者を合算した数字）から16万人増加しているが、後述する15～19歳の労働人口比率に変化は見られないため、単なる人口増加だと判断される。
- ・1992年～1995年の15～19歳の労働人口比率は17.9%と機動戦士ガンダム」が放映された1979年と変化はない。
- ・1992年～1995年の完全失業率の平均は2.7で「機動戦士ガンダム」の放映時期より増加し、特に、15～19歳の完全失業率の平均は7.38と大幅上昇している。なお、1998年以降は完全失業率が4%を超え、15～19歳の完全失業率は10%を超える。
- ・1996年の高等学校進学率は96.7%であり、中学卒業後の進路として就職を選択する者が「機動戦士ガンダム」放映時よりもさらに減少しているが、就職しても職を失う可能性がより高まったことが窺われる。
- ・1995年の中途退学者98,179人、中途退学率2.1%となっている。
- ・50日以上不登校児童数は1995年には小中学合計で66,874人とさらに急激に増加し、大きな社会的問題と認識されている。
- ・1992年～1995年の交通関係除く少年刑法犯検挙件数平均は154,920人と「機動戦士ガンダム」放映時期より減少しているが、前述のとおり、その後の1997年には「神戸連続児童殺害事件」、2000年には「豊川市主婦殺人事件」「西鉄バスジャック事件」などの動機に合理性が乏しい凶悪な少年犯罪が起きている。
- ・1992年～1995年の離婚数は平均で19万組に達する。また、人口千人に対する離婚率も92年～95年の平均は1.54と上昇し、2000年には2%を突破する。
- ・1992年～1995年の女性の労働力人口比率のうち、25～29歳、30～34歳の労働力人口比率はさらに増加している。

以上のように、1992年～1995年は、バブル景気が崩壊し、「平成不況」、「失われた10年」の只中で、15歳の少年・少女の大多数が高等学校に進学したが、その一方で、不登校も増えている。また、失業率や離婚率も上がり、20代～30歳代の女性の労働人口比率も増え、「高度経済成長」期の典型的な家族像（父が正社員、母は専業主婦）が多くで崩れたと思われる。なお、1996年には「Windows95」が発売され、「インターネットの仮想世界」や「ゲーム」を一人で楽しみ、「ポケットベル」の普及により「各個人が通信機器」を利用し、これまでの家族像の崩壊やデフレによるファーストフードの価格破壊により、「家

庭での食事」が減少し、経済不安の下での就職や失業問題と同時に「他者との断絶」「社会との隔絶」「人間関係の希薄化」なども問題になり始めた時代と思料される。

3・作品の世界観と主人公の性格など

・作品の世界観

「新世紀エヴァンゲリオン」の舞台設定について、角川書店の単行本「新世紀エヴァンゲリオン」の冒頭に「西暦 2000 年南極大質量の隕石が落下。かくして、有史以来未曾有のカタストロフィー『セカンド・インパクト』は起こった。水位の上昇、天変地異、経済の崩壊、民族紛争、内戦…世界人口は半分に激減。それから 15 年後の話」と解説がある。

「セカンド・インパクト」から数年後、人類は「使徒」と呼ばれる正体不明の生き物に襲われ、14 歳の少年・少女が国連直属組織「NERV」（ネルフ）が作った汎用人型決戦兵器人造人間エヴァンゲリオン（EVA）で戦う話であるが、ストーリーは複雑で難解である。

キリスト教の影響が強く、キリスト教に由来する様々な名称・言葉が使用され、かつ、医学用語や専門用語、陰謀論的なニュアンスを感じさせる「人類補完計画」など、まさに、「文明の崩壊」「終末論」「宗教ブーム」「陰謀論」の影響を強く感じさせる作品である。

また、「第一の使徒アダム」から作られた「汎用人型決戦兵器人造人間エヴァンゲリオン」は旧約聖書の「エヴァ」から連想された名称で、「機動戦士ガンダム」や他のロボット作品とは異なり、名称が表すとおり人造人間である。

「エヴァンゲリオン」の搭乗者は「インターフェイス・ヘッドセット」と呼ばれる神経接続の器具を頭部に着け、生命維持等の支援を行う「プラグスーツ」を着用し、コクピットである「エントリープラグ」に乗り込み「エヴァンゲリオン」の頸椎部分に挿入されシンクロされる。「エヴァンゲリオン」が敵からの攻撃でダメージを受けると、搭乗者も精神的、肉体的なダメージを受ける。つまり、搭乗者と「エヴァンゲリオン」は一体化され、「エヴァンゲリオン」は搭乗者の精神の入れ物の様な存在である。さらに、敵である「使徒」と「エヴァンゲリオン」は、「A.T.フィールド」と呼ばれる一種のバリアーを持っている。この「A.T.フィールド」は本作品での重要な概念と思料され、第 17 使徒「渚カヲル」は、「A.T.フィールドは誰もが持っている、心の壁」と説明している。「エヴァンゲリオン」の搭乗者は「母親のいない 14 歳の子供」から選抜されており、ある意味「母親のいない 14 歳の子供」には強力な「心の壁」「心の防御壁」を持っているとも解釈されるが、考え過ぎであろうか。

また、主人公は 14 歳の少年だが、作中には「綾波レイ」「惣流・アスカ・ラングレー」「葛城ミサト」「赤木リツコ」など女性が多く、特に「綾波レイ」は「機動戦士ガンダム」に登場する「ララァ・スン」同様に主人公の母性への憧憬の具象化が感じられる。

・主人公「碓シンジ」について

主人公の「碓シンジ」は 14 歳。国連特務機関 NERV 総司令官を父に持ち、母「ユイ」も軍属関係の研究者であったが、死亡しているため（正確には「エヴァンゲリオン初号機」の被験者となり、実験作業に肉体が消滅、精神は「エヴァンゲリオン初号機」に取り込まれ同一化しているが、主人公の「碓シンジ」は、それを知らない。また、「綾波レイ」の外見は「ユイ」のコピーである）漫画版では「叔父さんの家」アニメ版では「先生の家」（「叔父さん」も「先生」も詳細についての言及はない）に預けられていたようである。

性格は非常に内向的で漫画版の台詞に「僕には将来なりたいものなんて何もない。夢とか希望のことも考えたことがない。14 歳の今まで、なるようになってきたし、これからもそうだろう。だから、何かの事故やなんかで死んでしまっても別にかまわないと思っていた」というような思春期特有のニヒリズムを持っている。父親との関係は「葛城ミサト」との会話（漫画版）で「苦手なのね。お父さんのこと」と聞かれ、「メンドくさいだけです」「会ったってギクシャクするだけなの分かってますから」と答えている。また、父親の「碓ゲンドウ」は自分の息子の再会の際に「たったいま予備が届いた」と周囲に語り、「碓シンジ」は「ボクを必要としなかった父さんが造ったロボット」に乗ると語り、父子関係が破綻的な状態として描かれている。

「綾波レイ」との会話では、「何もかもイヤで」「どうでもよくて」「無気力で」「そのくせ表面上は素直でいい子を装ってしまう」「今まで生きてる振りをしてただけなのかもしれない」と語り、「一人のほうが気が楽だし」と「葛城ミサト」に語り、「暗い性格」と評される。

ある意味「A.T.フィールド」が強い少年である。

なお、漫画版「1 巻のあとがき」に脚本・監督「庵野秀明」は「我々は何を作ろうとしているのか？」と題し、本作品について次の様に述べている。「14 歳の少年は他人との接触を怖がっています。その行為を無駄だとし、自分を理解してもらおうという努力を放棄し、閉じた世界で生きようとしています。父親に捨てられたと感じたことから、自分はいらない人間なんだと一方的に思い込み、かといって自殺もできない、臆病な少年です。」（原文のまま）

以上のように、失われた 10 年が始まり、平成不況、終末論、精神世界ブームの中、「オウム真理教」が自分勝手な理由で多くの事件に手を染めた 1995 年に放映が開始された「新世紀エヴァンゲリオン」は、家族との関係に問題を抱えた少年が主人公であり、その少年は内向的な性格と厭世感を身に纏い、他者との関係を怖がり、自殺する勇気もなく、「アムロ・レイ」以上に「闘う理由、生きる目的や働く目的を見つけられず自分の殻に閉じこもる少年」であり、少年らしい「大人への反発心」や「社会への反発心」も希薄な 14 歳の少年として描かれている。

(4) 総論

第2次大戦で敗北し、焼け野原となった日本。それから約23年後、「矢吹 丈」は自分より強い相手を倒すため、「憎いあん畜生の顔めがけ、叩け、叩け」という様な生に対するギラギラとした輝きを放ちながら、「今日よりも良い明日」のために闘い、最後は真っ白になった少年であり、「矢吹 丈」には1968年当時の人々の「渇き」や「野心」や「明日への願望」が込められている。それから、約10年後、「アムロ・レイ」は偶然にも「ガンダム」の操縦席に座り、当初は「闘う理由」も分からず、現実としての戦争という日常の中で次第に成長し、「ニュータイプ」として覚醒し、最後は仲間の中に自分の居所を見つける少年であり、「アムロ・レイ」は1980年当時の人々の「迷い」や「居場所探し・自分探し」や「闘う理由への欲求」などが込められている。そして、さらに約15年後、「碓シンジ」は父親との関係や他者との関係に戸惑い、ある時は拒否し、厭世的で自分の殻に閉じこもる少年として描かれている。「あしたのジョー」から25年で主人公は完全に「明日」を見失い、完全に「渇き」を失い、完全に「自分の殻」に閉じこもってしまい、「闘う理由」見失ってしまった。もう、「明日のため」や「自分自身の渇きを癒すために」は闘えなくなり、「他者を怖がり」、「親や他者や社会に対して防御壁を作り」、「自分の欲望や本能に忠実」に生きる事が出来なくなり「目標」と「自信」を見失ってしまった。

「明日を見つめた」60年代から、物質的な豊かさの中で、「自分だけを凝視し始めた」90年代まで、アニメや漫画は日本の現状を的確に映す鏡であり、それを見た子供や大人が少なからずの影響を受け、自身の価値観に意識的、無意識的に作用している。

「新世紀エヴァンゲリオン」から約15年。日本の失われた10年は今や失われた20年と呼ばれ、問題の根本的解決は未だに行われていない。人々は目標を失ったままであり、構造改革は進まず、日本の国際的地位や経済力は落ち込み、「明日へ」希望を持ってない時代が続き、国民の多くは「碓シンジ」が感じた「厭世感」に苛まれ、自殺者が増え、うつ病患者が増え、働く意欲を失い、人生の目的を設定することさえ出来なくなっている。

これからの10年、「閉塞感」の中で、日本は今以上に困難な時代を迎えるかもしれない。日本の「明日はどっちだ」。

以上